

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

目次

二十歳を迎えた図書館三葛館 ----- 1	本も読まねばならぬ ----- 6
図書館利用を考える：私の図書館利用変遷と 今後の活用について ----- 3	人生を豊かに彩り、人々の発展を紡ぐ図書館 ----- 7
文献ファイル ----- 3	図書館の今後 ----- 7
図書館への想い ----- 4	どこで勉強？ 忘れていた図書館の活用法 ----- 8
短期大学から現在とこれから ：第20号を記念して ----- 5	『図書館報みかづら』を振り返る ----- 8
三葛館という図書館 ----- 5	データで見る図書館三葛館 ----- 10
	図書館サポーターズクラブLapo 平成28年度活動報告 ----- 11
	平成27年度三葛館活動記録 ----- 12

二十歳を迎えた図書館三葛館

理事長・学長 岡村 吉隆

平成10年創刊の年刊誌『図書館報みかづら』が、今回、第20号記念になることを嬉しく思います。本学は昨年創立70周年を祝い、終戦直前からの歴史を振り返りましたが、創刊20号と聞くと、人間に例えれば二十歳の成人式を迎えたようなもので、独り立ちをしたような、また若々しい新鮮さやこれからの発展を感じさせる勢いを感じます。

三葛キャンパスには学生の講義で図書館棟の1階には何度も行っていますが、2階に図書館があることは知りませんでした。創刊20号への寄稿依頼を受けて、ただちに三葛館を訪ねました。図書館三葛館を訪ねた時は、穏やかな秋の日で、明るい空間に、秋の優しい木漏れ日がさし、窓際で自習している学生達も心地よさそうでした。

図書館の建物としては、明るさ、静かさ、清潔さ、空間の広さなどが重要です。保健看護学部と医学部教養の学生と職員を合わせて利用者は約500名であることからすれば、こじんまりしているのはやむ

を得ませんが、それでも決して狭隘な印象はなく、とても感じの良い図書館だと思います。書棚を見て回り、書籍も充実しており、自習机も適正に配置されていると感じました。図書館機能とは、書籍の豊富さも要件ですが、一番重要なことは利用しやすさでしょう。開館時間が平日は9:00～22:00で、一部日曜も含めて土曜は10:00～17:00となっています。閉館時間をもっと遅くしてほしいとか、日曜も全面的に開館してほしいという意見も耳にしますが、私は現状で十分だと考えます。夜遅くまで勉強することは決して悪いこととは言えませんが、図書館でなければ勉強できないことはありません。無人での開館をしている大学もありますが、やはり図書館の施設管理や、利用者個人のセキュリティー、さらに照明や空調の光熱費などを考えると、現状の開館状況に合わせて利用していただきたいと考えます。

先日、医学部の5年生と話していて、彼らが県立図書館をよく利用するという話を聞きました。医学書なら大学の図書館の方が豊富なはずなのになぜ県立図書館を利用するのか尋ねました。すると、試験やレポート作成の時期などは借りたい本が重なるので、誰かが先に借りた時には県立図書館が便利だということでした。なるほどそういうことか。うまく利用しているなと感心しました。

個人的には大学の図書館に出向いて利用することはあまりなく、どうしてもオンラインでの利用です。県立や市立図書館は利用したことさえありません。ただし、図書館はよく利用します。どこの図書館かというと他府県の図書館です。会議などで出張する機会が多いのですが、会議まで2～3時間ある場合、時間をどう使うかで困る時があります。喫茶店でコーヒーを飲んで時間をつぶす、あるいは展覧会などを見るという手もありますが、図書館は基本的に無料で、時間制限もなく静かな空間を提供してくれます。そのことに気づいてからは図書館利用が第一選択で、東京には行きつけの区立図書館があり、利用カードを持っています。本を借りると返却に困るので、もっぱら読書コーナーやパソコンコーナーの利用ですがなかなか重宝しています。皆さんも、図書館の上手な利用方法を考えて見られたら良いと思います。

最後に、二十歳を迎えた我が図書館三葛館ですが、紀三井寺館と共により良い、より利用しやすい図書館になるよう、皆さんもアイデアを出していただきたいと思います。

MIKAZURA NOW!

平成27年度 利用統計		三葛館の蔵書 2015	
年間開館日	281日	蔵書冊数	58,817冊
入館者数	29,768人	うち洋書	9,174冊
	(1日平均 106人)	所蔵雑誌種数	978種
貸出人数	6,255人	うち外国語	146種
図書貸出冊数	21,112冊	年間受入図書冊数	2,091冊
視聴覚資料貸出件数	162点	うち洋書	486冊
相互利用依頼件数	722件	年間受入雑誌種数	458種
相互利用受付件数	825件	うち外国語	117種
学外利用者数	656人		(2016/3/31 現在)

図書館利用を考える：私の図書館利用変遷と 今後の活用について

保健看護学部 教授・図書館副館長 柳 川 敏 彦

SNS (Social Networking Service) を使って、不適切な情報発信の問題につながった出来事が時々報じられている。本大学でもまさしく生じている問題であり、対応を検討する時期に来ていることは明らかであるが、まずは、ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の効用に目を向けてみたい。以前 IT (Information Technology) という語句がよく使われていたが、ICT に置き換わりつつあり、最近は言葉の使い方にも時代の早い変化を感じる。

私の図書館利用の変遷は、医学論文の検索である。研修医の頃、治療に結びつく最新の診療情報を得るために、何種類かの雑誌のコンテンツ (主として論文タイトルと一部抄録) を定期的に取り寄せていたが、定期的なコンテンツシート収集には結構、お金がかかった記憶が残っている。さらに過去からの論文タイトルが収録されている「Index Medicus」を使ってハンドサーチで、目的の文献を探すという作業であった。目的の文献を得るために、実に時間と労力を要したものである。最終的にたどり着いた文献が、自分のほしかった内容と違いがっかりしたことも日常茶飯事であった。さて、いまや論文雑誌の電子化が世界的に進み、「Pubmed」などにアクセスして自分が読みたい多くの論文の抄録が自宅に居ながらにして無料で到達できるようになった。そして大学図書館も多くの電子ジャーナルが利用できるように整備が進み、コンテンツの増加とともに研究室からのアクセスでいくつかの論文の全文も手に入るようになった。私にとって文献を探す時間と費やすお金が減ったことは間違いなく効用の1つである。

冒頭で触れた ICT の多くの問題にどのように対応するかは、利用する個人の問題としての対応だけでなく、大学の問題としてすべての教職員、学生が、ICT 教育を定期的にする必要性を強く感じる。『図書館報みかづら』第20号記念号の発行を機に、ICT の図書館でのさらなる有効活用の発展を考えたい。

文献ファイル

医学部 教養・医学教育大講座 (化学) 教授 岩 橋 秀 夫

新しい研究を開始するとき、「PubMed」などを使って、先行研究を調べることがよくあります。見つけた文献には自分のパソコンから自由にプリントできるものもあるし、できないものは図書館に複写依頼をしています。文献がすぐに揃うので図書館には感謝しています。大学院生時代から現在まで、いろいろな研究を行ってきました。それぞれの研究について、そのとき集めた文献をテーマごとにファイルしています。結構な量になっています。たびたび研究室を引っ越してきましたが、古い文献を捨てられ

ずにファイリングキャビネットに保管してきました。少しずつ研究分野が変わったので、古い文献を参照することは、今では、ほとんどありません。ファイリングキャビネット中の古い文献ファイルを開いてみると、大学院生時代に研究していた核酸塩基対の相互作用についての文献がありました。紙は少し変色していましたが、その内容についてはよく覚えています。鉛筆でメモ書きがしてありました。自分のメモ以外に恩師の故京極好正先生のメモもあり、その当時は懐かしく思い出しました。あと1年あまりで定年になるので、そろそろ文献ファイルを整理しなければと考えています。PDF ファイルとして、USB メモリーにコンパクトに保管すればいいのですが、結局は捨ててしまうことになるだろうなと思っています。

図書館への想い

保健看護学部 教授 上松 右二

平成10年に『図書館報みかづら』を初刊し、記念の第20号を迎えるとの事、うれしく思います。日頃からの図書館運営に、今日まで携われてきた、また、現在携われている図書館員はじめ教職員の方々に感謝申し上げます。私自身、平成16年の保健看護学部開設時に医学部より移籍し、12年間のおつきあいになります。この間、平成16年、18～19年に図書委員会委員および委員長（図書館副館長）を務めさせていただきました。その当時を振り返ってみますと、図書館の主といった雰囲気庄司禎夫先生がいらっしゃいました。また、短期大学部から4年生大学への改組のための図書増進計画があり、蔵書が随分と増加した黎明期であったと思います。また、図書館司書の志茂淳子さんからの提案もあり、オリジナルの葉を学生と共に作成した思い出があります。また、『図書館報みかづら』第8号、10号に寄稿させて頂きました。

本学図書館は、質の高い保健看護職を育成し地域へ貢献する学部の教育理念の一翼を担い、学生、教員の学習と研究を支援する使命を有しています。さらに、和歌山県内の唯一の医療系大学として、県内の保健看護職の方々への資料・情報を提供し、生涯学習・研究を支援する役割も担っています。私の好きな言葉に、比叡山延暦寺開祖の伝教大師最澄の「一隅を照らす」があります。正に、本も私達に一隅を照らしてくれる1つであります。大学人として、この使命を忘れずに、図書館運営に尽力しなければなりません。

最後に、本に対する想いですが、無理なく引き込まれてついつい読んでしまう本が最も良いと思う。その本の中に、素晴らしい言葉を見つけたり、情景を浮かべることができたりすると幸せな気持ちになる。これが、本との出会いの醍醐味である。さらに、その本の著者がどのような人物なのか、なぜこのように書き示せるのかも興味深い。これからも素晴らしい本との出会いに期待している。

短期大学から現在とこれから：第20号を記念して

保健看護学部 教授 内海 みよ子

『図書館報みかづら』は、毎回楽しみに読ませていただいています。先生方のいつもと違った一面を知ることができますし、意外性もあり本当に楽しみです。私が原稿の依頼を受けたのは、だいぶ昔でその当時は庄司先生が図書館長をされており、どのような内容でもいいからと言われ書かせていただいた記憶があります。たぶんタイトルは「母からの推薦図書」だったと思います。庄司先生から「今までこのような内容はなかったので、いいですね」と褒めていただいたことを懐かしく思い出しています。その後あまり褒められることはないのですが、鮮明に記憶に残っています。これからも書かれる方、読まれる方の双方が楽しめる内容を期待しています。



三葛館という図書館

保健看護学部 教授 鹿村 眞理子

大学教員として勤務経験の長い私は、本学で4校目を数えます。したがって、同じ数だけの大学図書館を利用した経験があります。それぞれの図書館に特徴はありましたが、三葛館には他大学の図書館にない良さを感じています。そのことについて、以下にご紹介いたします。

まずは、看護学に関する蔵書が多いことです。1990年代半ば以降であれば、看護学関係の図書のほとんどを読むことができます。次に、「見計らい」という新刊図書を推薦するシステムです。本屋さんに行かなくとも、読むことができます。これまでは新刊図書に目のない私は、出版社の新刊案内からタイトルと著者名を基に購入していました。しかしそれだけの情報からでは購入した後に、がっかりした経験が多々ありました。実際に図書を手に取って、吟味して選ぶことのできるシステムにうれしさを感じています。このシステムで、労せずに新刊図書に関する情報を得ることもできます。さらに、図書を借用したときにいただく用紙を10枚集めると、しおりがもらえることです。これまでに、何枚かしおりをゲットし、便利に使用しています。これらから、図書館に関わる皆様方の創意と工夫を感じとることができます。他にも多くの工夫がありますが、とても利用しやすい図書館であるため、学部生や院生にこのことを伝えています。

現在は、ゆっくり図書館で過ごすという時を持てずにいますが、読んでみたい図書はたくさんあります。いつの日か図書に囲まれて、思う存分至福の時を過ごしたいと考えています。

本も読まねばならぬ

保健看護学部 教授 志波 充

三葛館には日々お世話になっております。この20年間これだけの環境を整えておくのに毎日色々な仕事とご苦勞があったのだらうと思いますが、そういえば図書館で働いておられる方がどんなふうに住んでおられるのか、全然わかってないですね。すみません。

図書館に望むこと。うーん、思いつかないというか図書館の画一的なイメージの連想から抜け出せないのですが、三葛館がこの後の20年には紙の書籍が減って電子化したものを読むのがあたりまえであったり、人工知能と一緒に作業をするブースができたりして、図書館機能はがらりと変わるのかもしれない。しかし場所としての存在は超然と孤独でいられるところとして残ってほしいですね。

How many books must a man read	人はどれだけの本を読めば
Before you call him a man?	一人前の人として認められるのか
The answer, my friend, is blowin' in the wind	友よ 答えは風に吹かれている
The answer is blowin' in the wind	答えは風に吹かれている

(勝手に書き換えてボブ・ディランさんすみません)

「本も読まねばならぬ」 でも読んでばっかりいても見えてこない
「凡人は働かねばならぬ」 働くことで見えてくる
(初代学長の古武彌四郎先生はこのようなことを言っておられます)

世間が活字を離れ、皆が本を読まなくなった。逆に言えばそういう時にこそ皆との違いを引き出すには本を読めばいいのだと思いますが、でも今の時代なかなか一冊の本を最初から最後まで読まない。暇じゃない。でも「この本」と思ったものをじっくり読み込むことから得られる精神の機軸と豊饒、時にそういう人に出会うとカッコいいと思う。

学生時代に本を読む楽しみと音楽を聴く楽しみを得たことは、今に至る生活の中で淡いけれど確かな彩を与えてくれたと思う。

平成28年度 図書館三葛館 展示図書 テーマ一覧

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 第69回「まなぶ・あそぶ・まもる 大学生活ナビ」 | 第74回「新書でそなえる新社会人のスキル」 |
| 第70回「最も借りられた展示で賞！2014～2016」 | 第75回「つたえるつながる」 |
| 第71回「レッツトライ！世界のコトバ」 | 第76回「みんな嬉しいたわりメニュー」 |
| 第72回「大学生に読んでほしい名著」 | 第77回「自分を整える」 |
| 第73回「おとなも絵本」 | 第78回「感染症からカラダを守る。」 |

人生を豊かに彩り、人々の発展を紡ぐ図書館

保健看護学部 教授 西村 賀子

『図書館報みかづら』第20号の発刊を祝し、心より言寿を申し上げます。三葛館は看護・医療に特化しながらも、教養教育も支える大学情報センターとして、IT化・電子化の急速な環境変化に適合化しつつ、質的・量的な充実を図ってこられました。その奮闘努力には敬意を表さずにはられません。

多くの学生さんは授業・実習・試験・研究の資料を求め、英語多読の本やCDを借りるために、あるいは単に勉強用の空間として、三葛館を訪れますね。でも、それだけではもったいない。どうか在学中に、人類の知の宝庫である図書館を自家薬籠中の物として存分に使いこなす技を身につけてください。

ジャーナリストの池上彰は『本は、これから』（池澤夏樹編、岩波書店；岩波新書、2010年）に寄せた「発展する国の見分け方」という随筆で、「書店が多数あり、国民が読書にふける国は発展する」と断言しています。そこで言及されているのは書店だけですが、図書館も同じこと。質の高い図書館のある地域や大学は発展します。ただ、いくらよい図書館があっても利用者がいなければ、まさに「仏作って魂入れず」。三葛館を看護学や医学の勉学に役立てるだけでなく、心をしなやかにする小説を読み、古今東西の思想に触れ、美術書で目を肥やすことで、日々を彩り、人生をより豊かなものにすることができます。身近な図書館をフル活用することは、あなたの大学（院）時代の価値と意義を何十倍にも増すと同時に、大学（院）や地域の発展を（つまりは、現在と未来の人々の安心や幸福を）紡ぎ出すことにも確実につながっているのです。

図書館の今後

医学部 教養・医学教育大講座（物理学） 教授 牧野 誠司

私は子供の頃、読みたい本があるときは本屋で買うことが多く、図書館で借りることはあまりなかった。ただ、値の張る本や全集物などはやはり手が出ないので図書館で借りていた。最近、出版社が新刊書の図書館での貸し出しを一定期間猶予するよう要請したとの報道があった。また、電子書籍が普及してきている。これらのことを考えると、図書館の役割はこれから変わっていくのではないだろうか。

大学図書館においても、論文雑誌の電子ジャーナル化などが進んできていることで、大学内での役割を考えていく必要があると思う。電子ジャーナルなど電子化を支えるのはコンピュータ・ネットワークである。大学図書館は大学の学術情報基盤を形作る施設の一つということで、今後はコンピュータ・ネットワークと結びつき、学内の教員、学生への情報提供だけでなく、大学からの情報発信も担うという方向性があり得ると考えられる。図書館とコンピュータセンターを統合した施設とすれば、学術情報基盤として情報提供・情報発信を一手に担う総合施設となるのではないだろうか。

どこで勉強？ 忘れていた図書館の活用法

保健看護学部 教授 森岡郁晴

図書館には資料が沢山あるので、何かを読んだり、分からない点を調べたりする目的で訪れる。さらに図書館には、静寂で、長い時間いることができるという特徴があり、「何かに集中したい！」場合にも来館する人が多い。

静けさは自宅と異なる。自分の部屋はひとりなので、何でもできる。図書館は他人の目がある。何か音を立てると目立つ。居眠りは決まりが悪い。友達と会っても大声の話はできない。こんな雰囲気の中にいると、自然と勉強に集中できる。

国家試験が近づくと、大学図書館は早く閉まると苦情を言う学生も多い。閉館時間が決まっていることは、時間をきちんと決めて勉強できることになる。締め切りがはっきりしていると集中力が増すのは、私だけかな。

図書館は、勉強したい人にはいい場所である。すでに多くの先輩が、図書館三葛館を活用し、巣立っていった。図書館三葛館は20周年になる。思い出深い先輩は懐かしく、これからの学生は積極的に、図書館を訪ねてみてはいかが。

『図書館報みかづら』を振り返る

図書館三葛館 主任 志茂淳子

現在の和歌山県立医科大学図書館三葛館は、平成8年4月に開学した和歌山県立医科大学看護短期大学部図書館（以下、「短大図書館」）が前身です。和歌山県立医科大学の図書館としては、前身の短大図書館時代を含めると、開館からすでに20年が経過しています。平成19年3月の看護短期大学部閉学までの短大図書館の活動は、『礎：看護短大からの始まり：和歌山県立医科大学看護短期大学部閉学記念誌』（和歌山県立医科大学看護短期大学部閉学記念行事準備委員会編、和歌山県立医科大学看護短期大学部，2007年）に記録として残しており、平成16年4月以降の図書館三葛館の活動は、平成28年に発行した『公立大学法人和歌山県立医科大学70年の歩み』（和歌山県立医科大学70周年記念誌編集委員会編、和歌山県立医科大学医学部同窓会，2016年）に報告していますので、詳細はそれぞれに譲り、本稿では、第20号発行を機にこれまでの『図書館報みかづら』を振り返ってみたいと思います。

図書館三葛館の図書館報としては、短大図書館が開館翌年の平成9年4月に図書館新聞『MIKAZURA news』を創刊しましたが、早くも第2号で終刊しました。その後継誌として平成10年11月に本誌『図書館報みかづら』を創刊し、今号で第20号を発行する運びとなりました。

創刊号には、本誌『図書館報みかづら』の誌名の由来が当時の図書館長・前田眞行先生によって述べられています。それによると、図書館名にもなっている「三葛」という地名から命名され、『続風土記』や連如上人の歌に「みかづら」が使われていたそうです。この誌名が「みかづら」ではなくて「みかづら」となった経緯は明言されていませんが、第12号に投稿された当時も副館長（保健看護学部図書委員長）であった柳川敏彦先生による考察がおそらく正解だと思います。

創刊号から第3号までは、白色上質紙厚口にえんじと黒のカラー2色刷A4版8ページで、図書館長による巻頭言と利用統計、雑誌目録、寄贈図書目録、活動報告などで構成され、時々教員の寄稿や図書館による利用ガイドが掲載されています。第4号からは、若草色（12号からはもえぎ色）の色上質紙中厚口に緑色のカラー1色刷A4版8ページとし、学長や図書館長、学部長など教員による巻頭言をはじめ、教員や職員、学生などに依頼した図書館や本に対する考えや思い、推薦図書などについての寄稿を中心に、図書館による利用統計やお知らせ、利用案内、活動報告などを掲載し、現在に至っています。平成14年度に発行した第5号から年2回の発行を目指しましたが、その年度だけ2回発行したものの、翌年度からはもとの年1回に戻りました。いずれにしても、図書館の活動や案内を周知するための媒体であるとともに、教員や学生など図書館を利用する人の考えを、学生や教職員に対して研究成果以外に情報発信できる数少ないメディアの一つとして継続して発行してきました。平成23年度には「図書館サポーターズクラブ Lapo」が図書館における学生協働の足掛かりとして発足し、学生目線での図書館活用の取り組みについての活動報告を第15号から掲載することで、学生にとってより身近な発行物となったのではないかと感じています。

第12号までは業者による印刷を行っていましたが、第13号から第19号まではコスト削減と編集・印刷のスケジュール調整の利便性、オンデマンド印刷が可能であることなどを理由に図書館のコピー機兼プリンタを利用した自前印刷としました。第20号では、12ページの拡大版としたこと、印刷部数が増加し自前印刷の方が割高となることなどを背景に、業者による印刷に戻しました。平成16年度の保健看護学部開設による大学統合や、平成20年度の助産学専攻科と大学院保健看護学研究科修士課程の開設、平成21年度の医学部教養・医学大講座の三葛キャンパスへの移転、平成25年度の大学院保健看護学研究科博士後期課程の開設など、キャンパスの形態や規模が変化するとともに配布先も増えました。現在は、保健看護学部や助産学専攻科、保健看護学研究科の卒業生と、新年度には保健看護学部1～4年生と医学部1年生、保健看護学研究科大学院生、三葛キャンパスに在籍する教員、附属病院も含めた学内の各部署に1部ずつ配布し、発行部数は約1,000部となっています。

第7号からは、図書館三葛館ウェブサイト上でPDF版として公開しています。一般的には電子版のみの発行とする傾向がありますが、実際に目の前に存在する紙媒体のチカラも見逃せません。私は第4号から編集に関わってきましたが、これまでの『図書館報みかづら』をふりかえり、特筆すべきと考えるのは、創刊の際に当時の図書館長や図書館員が、「ISSN (International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号)」という逐次刊行物（雑誌など、巻号を持つ毎号同じタイトルで終わりを定めずに継続して発行され出版物）を識別するための国際的なコード番号を取得してくれていたことです。そのおかげで、各号を発行の都度、国立国会図書館に納本しており、発行の使命を得て第20号に至っていると思います。末筆ながら歴代の図書館長や副館長、教員のみなさまのご協力に感謝申し上げますとともに、三葛館として今後の発行継続をお約束し、筆を置くこととします。

データで見る図書館三葛館

保健看護学部ができてから

平成 16～27（2004～2015）年度



三葛館にはどれぐらいの蔵書があるの？
一年間にどれぐらいの資料が借りられているの？



蔵書数は、保健看護学部開設時と比較すると倍増していますが、スペースの狭隘化を背景に除籍も行っています。
貸出冊数は平均 1 万 7 千冊で、さまざまな要素によってバラツキがあり、インターネット普及の影響も受けています。



一年間にどれぐらいの人が三葛館を利用しているの？
学外の方はどれぐらい三葛館を利用しているの？



入館者数は年間 3 万人を超えていましたが、データベースのオンライン化や電子ジャーナルの導入などをはじめ、時代の流れとともに減少傾向です。
学外の方の利用は年間 700 人前後で年度によってバラツキがあります。

図書館サポーターズクラブ Lapo 平成28年度活動報告

図書館サポーターズクラブ Lapo は、平成23年に結成して以来、図書館をより身近なものにし、学生生活をより豊かなものにするために、学生の立場から様々な活動を行ってきました。今年行ったたくさんの企画の中から主な活動をご報告いたします。

- 保健看護学部新入生オリエンテーション（4月）

新入生オリエンテーションのお手伝いと図書館サポーターズクラブ Lapo の説明を行いました。

- 和医大周辺ナビ@教員と新入生の交歓会（4月）

昨年度に引き続き開催された「教員と新入生の交歓会」において、学生ホールでパワーポイントを用いて大学周辺のおすすめスポットやお店を紹介しました。また今回は、Lapo オリジナルのガイドブック「和医大周辺ナビぶっく」を作成し、配布しました。

- 蔵書点検作業のお手伝い（8月）

蔵書の点検や整理を2日間お手伝いしました。2日目には司書さん企画の「蔵書点検 Thanks イベント: じぶんのことを知ってこれからを考えよう！」を開催してもらい、メンバー各々が自分のいまとこれからの仕事や将来について考える機会となりました。

- 第1回 Lapo Book Café 絵手紙 Lesson（9月）

絵手紙を日常的に書いている Lapo メンバーから簡単な手解きを受け、図書館でおススメしたい本を各自で選び、その本から感じたことや受け取ったイメージなどを絵と短い言葉で表現しました。

- 学生企画展示:「絵手紙×(かける)本」(10月)

学生企画展示 Vol.5 として、Lapo Book Café で作成した絵手紙とともに図書館の本を展示しました。メンバーが各自選んだ本から感じたことや受け取ったことを絵手紙にして紹介しました。

- 第2回 Lapo Book Café 絵手紙 Lesson Part.2（11月）

第1回に引き続き、Lapo メンバーとともに、参加者の学生や先生が選んだ本について感じたことを絵手紙で表現してもらいました。すでに行っている学生企画展示「絵手紙×(かける)本」に追加しました。

- 三葛館のタスケル No.8「正しい電子メールの送り方」作成（12月）

普段メールを使うことがない学生や院生に電子メールの送り方について知ってもらうために、「三葛館のタスケル No.8」としてリーフレットを作成し、三葛館で配布しています。

- 「Lapo Aroma Café 2016」（三葛館共催）（12月）

今回で4回目となった Aroma Café では、アロマセラピーに関するレクチャーとアロマオイルを使ったハンドトリートメント体験を行いました。その後は、ハーブティーとハーブを使った手作りお菓子をとりながら、Lapo の OG/OB の参加もあり卒業生や学年を超えた交流ができました。

今後も図書館を学生生活の中でより身近なものにしてもらえるよう、三葛館の司書さんにも協力していただきながら Lapo のメンバー一同、頑張っていきます。

(保健看護学部 2年 北川 雄大)

平成27(2015)年度三葛館活動記録

4月2日	第1回保健看護学部図書委員会 保健看護学部 新規採用教員オリエンテーション
4月7日	保健看護学研究科 新入生オリエンテーション 助産学専攻科 新入生オリエンテーション
4月9日	医学部 新入生オリエンテーション 保健看護学部 新入生オリエンテーション
4月25日	日本看護図書館協会 第25回総会 (日本図書館協会：東京)
4月30日	第2回保健看護学部図書委員会
5月21日	日本看護図書館協会 第1回機関誌「看護と情報」編集委員会 (聖路加国際大学：東京)
6月2日	第3回保健看護学部図書委員会
6月24日	保健看護学部「保健看護研究Ⅰ」文献検索講義
6月30日	株式会社サンメディア 第11回学術情報ソリューションセミナー2015 in 大阪 (ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター：大阪)
7月2日	日本看護図書館協会 第2回機関誌「看護と情報」編集委員会 (聖路加国際大学：東京)
8月3～7日	蔵書点検
8月6日	株式会社リコー 図書館システム LIMEDIO Seminar 2015 (ホテル日航大阪)
9月7日	図書館サポーターズクラブ Lapo 課外活動：図書館見学, 図書館サポーターとの交流会 (名古屋大学附属図書館医学部分館/保健学部図書室, 愛知大学名古屋図書館)
9月10～11日	大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 版元提案説明会 (一橋大学：東京)
9月27日	医療を学ぶ人のためのEBM ワークショップ (国立病院機構名古屋医療センター：愛知)
10月1日	保健看護学研究科「英語文献講読」海外文献検索講義
10月14日	保健看護学部「保健看護英語」海外文献検索講義 第4回保健看護学部図書委員会
11月5～6日	国立情報学研究所 平成27年度目録システム地域講習会 (雑誌コース) (東北大学：宮城)
11月12日	第5回保健看護学部図書委員会
11月30日	日本看護図書館協会 第3回機関誌「看護と情報」編集委員会 (聖路加国際大学：東京)
12月19日	診療ガイドライン作成ワークショップ (愛知医科大学)
12月25日	第3回 Lapo Aroma Café (図書館サポーターズクラブ Lapo 共催)
1月23日	看護図書館員のための文献検索教育セミナー2015 (京都府立医科大学)
1月28日	第6回保健看護学部図書委員会
2月5日	平成27年度保健看護学部卒業生ベストリーダー表彰式
3月10日	日本看護図書館協会 第4回機関誌「看護と情報」編集委員会 (聖路加国際大学：東京)
3月19日	図書館員のための第3回勉強会：統計 (愛知医科大学)
3月21日	照明取替工事

編集後記

第20号を記念して、学長や副館長をはじめ三葛キャンパスに在籍歴の長い教授を中心に図書館や三葛館への思いを寄稿していただき、12ページの拡大版として発行いたします。ご執筆くださいました先生方、ご多忙のところ気にかけてくださった先生方、誠にありがとうございました。

図書館開館から21年、図書館三葛館としては11年が経とうとしています。大学図書館として教職員や学生のみならずさまに対してどのようなサポートができるのか、常に考えながら次の10年に臨みたいと思います。(J.S.)



平成29年3月31日発行
 図書館報 みかづら (第20号)
 編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館
 〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地
 TEL (073) 447-2300 (代表)
 (073) 446-6721 (三葛館)
 FAX (073) 446-6730 (三葛館)
<http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/>

